

は し が き

言語センター長 大 島 稔

言語センター広報Language Studiesの第17号をお届けします。2007年10月1日付けで、言語センター長が個別言語部門英語系の大島稔教授に、副センター長が個別言語部門ドイツ語系副島美由紀教授に代わり1年半が過ぎようとしています。

2006年1月に本学教育開発センターの協力により導入された英語のe-Learningシステムは、授業の中で、あるいは授業外の自習教材としても利用されてきましたが、英語科では、2008年4月から1年生全員を対象にこのe-Learningによる自習授業を実施することになりました。e-Learningによる自習は、学務課で2008年3月から実施することになった外部テストのTOEIC IP(Institutional Program団体受験)のスコアを利用して成績評価を行っています。

英語以外の外国語についてもe-Learningシステム構築の必要性は以前から認識されているものの、適当な学習ソフトが少なく、実施に至っていないのが残念です。

e-Learningシステムは、言語学習に必要な自主的反復練習はもちろん、マルチメディアを利用したコミュニケーション重視の教授法の開発などにおいて重要なツールとなると予想されるので、言語センター全体として、e-Learningを活用した授業の展開と施設・ソフトの充実をめざして行きたいと考えています。2008年度には、教育開発センター経費による「e-Learning英語教材の開発」が個別言語部門英語系吉田直希准教授を代表として開始されました。

マルチメディアLL教室とe-Learningの利便性と有効性が認識される一方で、他のマルチメディア教室(MH1~3)も語学における対面授業、あるいは他学科のマルチメディア授業に利用されるようになり、施設の不足が顕著になってきています。特に、マルチメディアLL教室への利用希望が多く、授業時間が重なる場合も多いので、利用したくてもできないという事例が増えており、この問題の解決は、時間割の改善では、解決が難しくなっており、マルチメディアLL教室の増設が急務な状況と思われます。

ネイティブ・スピーカーによる集中外国語会話公開講座は、今年度、韓国語を含めて4講座が開講されました。4月から6月にかけて、斐嶺教授による中国語会話講座、ショーン・クランキー准教授による英会話講座、本学非常勤講師であるアレクサンドル・スペヴァコフスキー氏によるロシア語会話講座、非常勤講師宣憲洋氏による韓国語会話講座が実施されました。この公開講座は、言語センターが平成5年度から毎年開講しており、今年は、英語を除いて、受講者は、あまり多くはありませんでしたが、全講座とも熱心なリピーターもおり、受講された方々にはたいへん好評でした。

本学の教員と、高校や中学で教員となっている本学卒業生とでつくる教職研究会の第21回大会が平成20年12月13日(土)にマルチメディアホールとマルチメディアLLを会場として開催されました。例年の研究発表・実践発表と講演の他に、今年度は、セミナーで、本学言語センターのマーク・ホルスト、ダニエラ・カリヤーヌ両准教授が「Teaching English in English」という表題で本学学部生のアンケート調査に基づき中学・高校での英語による英語の授業の必要性について問題提起する発表がありました。セミナーのもう一つの発表は、文科省に指定されて

SELHI(Super English Language High School)を実施している滝川西高の佐々木晃、函館中部高の辻広美両先生の発表がありました。本学卒業生を中心に、本学教員、大学院生、学生なども含めて50数名の参加がありました。

さて言語センター所属の教員の海外出張と研修についてご報告します。

個別言語部門英語系吉田直希准教授は、科学研究費補助金により「アメリカ18世紀学会年次大会打ち合わせおよび成果報告書作成に関する資料収集」のため、南カリフォルニア大学ポモナ校へ平成20年2月10日～2月21日出張されました。個別言語部門フランス語系江口修教授は、「交流協定の調印式への参加と打ち合わせ」のため平成20年2月3日～2月6日の間成均大学および延世大学原州キャンパスへ国際交流センター長として出張されました。個別言語部門中国語系裴崢教授は、「外国語教授法に関する調査・資料収集」のため、香港中文大学へ平成20年4月30日～5月7日出張されました。個別言語部門中国語系裴崢教授は、「外国語教授法に関する調査・資料収集」のため、北京師範大学へ平成20年8月2日～8月27日出張されました。個別言語部門ロシア語系の山田久就准教授は、科学研究費補助金により「アバール語、他の諸言語に関する資料収集」のため、ロシア連邦モスクワ市国立図書館他に平成20年9月3日～9月19日出張されました。比較言語部門フランス語系高橋純教授は、「語学教育機関視察および語学・文学研究資料収集」のため、CAVIAM, Clermont-Ferrand大学、フランス国立図書館へ平成20年9月3日～9月12日出張されました。個別言語部門フランス語系江口修教授は、「16世紀フランス地方語の調査・資料収集」のため平成20年9月5日～9月17日の間フランス国立図書館、カーン大学、レンヌ大学へ出張されました。個別言語部門英語系マーク・ホルスト准教授は「博士号取得」のため平成20年8月21日～9月9日の間イギリス、エディンバラ大学へ出張されました。個別言語部門英語系羽村貴史准教授は、科学研究費補助金により「アメリカ文学研究に関する資料収集、インタビュー、祝祭への参加」のため、マサチューセッツ大学アマースト校、Chabad Lubavitch,筑波大学等へ平成20年9月21日～10月5日出張されました。個別言語部門英語系羽村貴史准教授は、アメリカ文学研究に関する資料収集のため、マサチューセッツ大学アマースト校へ平成19年9月10日～9月19日出張されました。個別言語部門フランス語系江口修教授は、「10月入学の促進に係わる調査および中国語夏季派遣研修先の調査」のため平成20年11月12日～平成20年11月15日の間東北財経大学(中国・大連市)へ国際交流センター長として出張されました。個別言語部門中国語系裴崢教授は、「外国語教授法に関する調査・資料収集」のため、北京師範大学へ20年12月24日～平成21年1月17日出張されました。個別言語部門英語系高井収教授は、「異文化コミュニケーションに関する資料収集」のためオレゴン州ポートランド大学に平成20年12月25日～平成21年1月15日出張されました。

その他言語センター教員の移動について報告します。

平成19年3月から1年間、ケンブリッジ大学で本学派遣の在外研究員として出張されていた個別言語部門英語系杉村泰教教授が平成20年3月に帰国しました。杉村教授は、留学中に長年のウィリアム・ゴールドディングを中心とする英文学研究の成果を出版し、東北大学より博士号(文学)を授与されました。平成20年10月1日付けで、嘉瀬達男氏が個別言語部門中国語系准教授として赴任され、新たに言語センタースタッフとして加わりました。また、残念なニュースですが、長年本学のドイツ語教育において熱心な指導をされてきた個別言語部門ドイツ語系大塚謙教授が平成21年3月をもって退職となります。